



山内婦人防火クラブでの救急訓練

婦人防火クラブは、各地域の女性で結成されているボランティア団体で、家庭での火災予防知識の習得や、地域全体の防火意識の高揚などを目的に結成されています。市内では、昭和54年から各地域で団体が結成され始め、昭和58年には、橋本市婦人防火クラブ連絡協議会が設立されました。

婦人防火クラブ

地域の特性を生かした活動

各地域の婦人防火クラブでは、それぞれの地域の実情や特性を生かした防火・防災活動を実施しています。具体的には、火災予防の知識の習得、地域住民に対する防火啓発、初期消火訓練など、家庭でできる火災予防

に役立つ活動が中心となっています。また、現在では救急訓練や自主防災組織と連携した炊き出し訓練なども実施し、地域の事情や特性を生かした防火・防災活動を行なっています。

今後の活動

新型コロナウイルス感染症の拡大により、訓練やイベントなどが相次いで中止となっています。しかしそのような状況でも、感染症対策を徹底しながら、婦人防火クラブと協力し、大型店舗などにおける火災予防広報や、住宅用火災警報器の設置・点検・更新活動を行い、防火・防災活動を推進していきます。



火災予防週間 11月9日~15日
全国統一防火標語
「おうち時間 家族で点検 火の始末」

自分たちの地域は自分たちで守る

昭和58年4月1日に橋本市婦人防火クラブ連絡協議会がスタートしました。

ピーク時には33クラブ、会員は2,000人を超え、家庭での防火・防災知識の習得や、安全・安心なまちづくりを実現するための活動を行なってきました。しかし近年は、女性の社会進出や自主防災組織の設立などにより地域の婦人防火クラブ数とクラブ員が半減しています。地域に根ざした女性目線のきめ細かい婦人防火クラブの活動はその地域にとって重要な役割を担っており、火災や地震、水害などの災害時には大きな力となります。「自分たちの地域は自分たちで守る」という信念と連帯意識の下、これからも安全・安心なまちづくりのために活動していきます。また、多くの人に婦人防火クラブの活動を知ってもらい、積極的に参加していただきたいと思ひます。



橋本市婦人防火クラブ連絡協議会
会長 富岡 朋子 さん

火災から地域を守るために

橋本市消防本部では、安全・安心なまちづくりのため、各種関係機関などと連携しながら、火災から市民を守ります。
【橋本市消防本部】

市内の火災状況や消防本部の取組み

市内での火災発生状況

令和2年中に市内で発生した火災件数は18件（建物火災10件、車両火災1件、その他火災7件）で、令和元年中に比べると6件減少しています。しかし、令和3年は9月末時点で14件の火災が発生しており、昨年同期の火災件数を上回っています。また、建物火災により、令和2年10月と、令和3年3月にそれぞれ1人が亡くなっています。

	令和元年	令和2年	令和3年*
建物	9件	10件	8件
林野	0件	0件	0件
車両	0件	1件	0件
その他	15件	7件	6件
合計	24件	18件	14件

※9月末時点

消防本部の取組み

- 防火訪問
各家庭を消防職員が訪問し、市民からの声を聞きながら火災発生を防ぐとともに、住宅用火災警報器の設置・点検を推進しています。
- 消防車などによる広報活動
火災予防運動期間や年末、また火災が発生しやすい気象状況時に市内を巡回して、火災の予防を広報しています。
- 訓練指導
地域住民や事業所を対象に消火訓練などを実施し、初期消火の方法などを指導しています。
- 広報はしもとおよびホームページへの火災予防啓発記事の掲載
身の回りの火災が起こりやすい箇所や、火災予防について掲載しています。
- 住宅用火災警報器の啓発
ボランティア団体である婦人防火クラブと協力し、市内大型店舗などにおいて住宅用火災警報器の設置・点検の推進を行います。また、今後の指標とするためのアンケート調査を実施しています。

安全・安心のまちづくり



▲各家庭への防火訪問

全国的に火災件数および死傷者数は減少傾向にあります。依然年間1,000人以上が建物火災で亡くなっています。住宅火災の逃げ遅れを防ぐには住宅用火災警報器の設置が有効です。

橋本市の住宅用火災警報器の設置率は全国平均を下回っているため、今後も消防本部として設置を推進していきます。また、訓練指導や防火訪問を実施し、市民の防火・防災意識の高揚を図っていきます。

問い合わせ

橋本市消防本部 予防課
☎ 333・3713